

福岡県・北九州市 出張報告要旨

1. 訪問目的

北九州市では、紫川エコリバー構想、八幡東田グリーンビレッジ構想など、産学官民の協働によるさまざまなプロジェクトが実施されているほか、市長の北橋氏が低炭素都市推進協議会の会長を務めるなど、環境モデル都市として意欲的かつ精力的に低炭素都市づくりに取り組んでいる。国家戦略として低炭素都市づくりを更に推進するに当たり、先駆的な取り組みにつき情報収集し、現場の意見、アイデア、課題などを収集する。

2. 現地で得られた意見・アイデア

- 先駆的な取組は、市当局と事業者・市民の密接な関係に基づく連携が前提であり、行政として取組を後戻りさせない覚悟に加え、その覚悟を受け入れて協働する地域としての土台が重要
- 様々な取組を機能させるためには、行政と事業者（企業）だけではなく、利益と理念を両立させた NPO の積極的な関与が有効
- 八幡東田地区における、天然ガスコジェネ発電による環境負荷の少ないエネルギー供給などは、有効に機能している成功例といえるが、他方で工場群と民生用地が隣接している当地の事情が故に成り立つものでもあり、各地域の事情によって、成功への処方箋はそれぞれ異なる。従って、この地域の事例をそのまま他の地域に適用するのは必ずしも容易ではない
- 「東田エコクラブ」のように、立地企業、地域住民、NPO などの活動拠点となる場が、地域としての土台づくりに有効

3. 今後の検討事項

- 低炭素都市づくりに必要な規制改革等
- 国の補助事業のあり方

以 上